

名古屋高等裁判所金沢支部第1部C1係 御中

平成26年(ネ)第126号

大飯原発3, 4号機運転差止請求控訴事件

一審原告 松田正 外187名

一審被告 関西電力株式会社

証 拠 説 明 書

平成26年10月30日

一審原告ら訴訟代理人弁護士 佐藤辰弥

同 上 笠原一浩

号証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作 成 者	立 証 趣 旨	備 考
甲103	新聞記事(インターネット版)	写し 2014.3.7	朝日新聞社	平成26年3月時点の岩手, 宮城, 福島 の被災3県の震災関連死者2973 人中福島県民は最多の1660人で, 津 波や地震による「直接死」の1607人 を上回り, 避難指示区域の住民の震災関 連死がそのうちの8割を超えること	
甲104	同上	写し 2014.8.24	同上	福島県は, 平成26年8月, 「事故当 時18歳以下だった福島県民30万人 を対象に実施した甲状腺検査結果で甲 状腺がんと判定された者は57人, 疑い を含めると104人」と発表したこと	
甲105	同上	写し 2014.3.11	日本放送協会 (NHK)	福島原発事故による被害額(被害者へ の補償費用含む)は政府や東京電力のデ ータによっても11兆1600億円余 りと推計されること	
甲106	聴取結果書別紙「事故時の状況とその対応について4」(写し 2011.8.16	東京電力福島原子力発電所における	平成26年3月14日から15日に かけて, 福島第一原発2号機において は, 吉田氏に死を覚悟させ, 事故後5か月 近くがたった時点でも「思い出したくな	

	抜粋)			事故調査・検証委員会（政府事故調）	い」というほどの戦慄を与えた、更なる「最悪の事故」の危険性が現実にあったこと（50, 52p）。本書面は、政府事故調による吉田昌郎福島第一原発所長（当時）に対する聴取結果をまとめたいわゆる「吉田調書」の一部である。
甲107	毎日新聞（2014年5月22日）	写し	2014.5.22	毎日新聞社	入倉孝次郎京都大学名誉教授が、原判決について、「1260ガルを超える地震が絶対来ないとは言い切れず、警告を発する意味で重要な判決だ。」と述べたこと
甲108	「原発を終わらせる」（岩波新書）抜粋	写し	2011.7.20	石橋克彦編	石橋克彦神戸大学名誉教授が、「人間の地震現象に関する理解はまだきわめて不十分で、予測できないことがたくさんある」など、「原発と地震」の問題を考えるさいに肝に銘じるべき4点を指摘していること
甲109	平成26年度原子力規制委員会第8回会議議事録	写し	2014.5.21	原子力規制委員会	本件原発では、適切な地震観測を行っていなかったことが、原子力規制委員会の会議において、島崎委員長代理から指摘されたこと（8頁）
甲110	防災科学研究所代43号2010年3月「2008年岩手・宮城内陸地震の地震動の特徴－非対称な地震動とトランポリン効果－」	写し	H20.3	防災科学研究所	①KiK-netは平成9年に整備された強震観測網であること②一関西観測点で三成分合成402ガルは自由表面における地震記録としてはこれまでに観測された最大のものであること③岩手・宮城内陸地震の発生によってみられた上下動の加速度記録に非対称性がトランポリン効果として説明されており、この地震の発生以前には同効果は知られていなかったこと
甲111	新聞記事（平成26年3月29日愛媛新聞）	写し	H26.3.29	愛媛新聞	これまで原発の耐震設計を主導してきた入倉孝次郎氏も、今日では「私は科学的な式を使って計算方法を提案してきたが、これは平均像を求めるもの。平均からずれた地震はいくらでもあり、観測そのものが間違っていることもある。基準地震動はできるだけ余裕を持って決めた方が安心だ」と述べていること

甲112	「安全余裕の危険な話」と題する書面	写し	2008. 5. 24	田中三彦	安全余裕とは、「構造物に存在している純粋な安全余裕の割合」ではなく、あくまで、構造物の安全性を脅かす不確定要素の程度を意味するのであること及び、航空機の安全余裕は原発よりも低い が、これは、航空機の安全性を脅かす不確定要素が原発よりも少ないことを意味しているに過ぎず、航空機が、原発に比して危険な構造物であることを意味するものではないこと等
甲113	「7月以降の検討課題について」と題する文書	写し	H25. 4. 4	原子力規制委員会	耐震設計の重要度分類も見直しを行うこととされたが、これらの見直しは、新規制基準策定後の検討課題として先送りにされ、現在も見直しが行われていない状況であること
甲114	シビアアクシデント対策既成の基本的考え方に関する検討	写し	H24. 7. 12	原子力安全・保安院	欧州では、航空機衝突等の対策として、格納容器を二重にするなどの対策を行っていること